

四国における学協会の受賞作品

学籍番号：1110349 氏名：比与森友維

高知工科大学工学部社会システム工学科

日本国内の建設部門のある学協会においては、優れた作品を顕彰する制度がある。過去から現在にかけて、四国地域においても学協会等において顕彰された作品はあるが、それはどのくらいあるのか、またその内容や特徴は整理されていない。そこで本研究は、社団法人日本建築学会、社団法人土木学会、社団法人都市計画学会、社団法人建築業協会の4つの学協会における四国の受賞作品を抽出し、分析することを目的としている。

Key Words : 四国、学協会受賞作品、学協会別、県別、用途別、年代別

1 はじめに

1.1 研究の背景

日本国内の建設部門のある学協会においては、優れた作品を顕彰する制度がある。主に業績のある学協会として、社団法人日本建築学会、社団法人都市計画学会、社団法人土木学会、社団法人建築業協会が挙げられる。過去から現在にかけて、四国地域においてもこれらの学協会において顕彰された作品があるものと思われるが、どのくらいあるのか、またその内容や特徴は整理されていない。受賞作品を整理し、四国の受賞作品の特徴を見ることが必要である。

1.2 研究の目的

そこで本研究は、四国における主な学協会での受賞作品を抽出し、分析することを目的としている。

1.3 研究の方法

社団法人日本建築学会、社団法人都市計画学会、社団法人土木学会、社団法人建築業協会での四国の受賞作品の一覧を作成し、分析する。

2 各学会・各賞の概要

2.1 社団法人日本建築学会

(1) 学会の概要

会員相互の協力によって、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかることを目的とする公益法人である。

(2) 日本建築学会賞の概要

作品部門がある賞は日本建築学会賞と作品選奨である。作品賞に選ばれるのは通常年間1~3作品のみであり、国内の建築家に与えられる最高峰の賞である。

2.2 社団法人土木学会

(1) 学会の概要

1914年に社団法人として設立され、「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」（土木学会定款）ことを目指し、学術・技術の進歩への貢献、社会への直接的貢献、会員の交流と啓発を柱として、さまざまな活動を展開している。

(2) 田中賞の概要

本学会では11種類の賞がある。その中で、作品部門がある賞は田中賞であり、橋梁およびそれに類する構造物の新設ならびに改築（既設構造物の機能向上、機能維持）で、計画、設計、製作・施工、維持管理の配慮などの面において特色を有する作品を対象とする。

2.3 社団法人都市計画学会

(1) 学会の概要

都市計画及び地方計画に関する科学技術の研究発展を図る為、昭和26年に創立された。その後、「都市計画に関する学術の進歩普及を図り、もって学術・文化の発展に寄与すること」を目的として、我が国の都市計画界において戦後約半世紀にわたって先導的な役割を果たしている。

(2) 石川賞の概要

社団法人都市計画学会には6つの賞があるが、作品部門のある賞は石川賞である。都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をした個人または団体を受賞の対象とする（会員に限らない）。

2.4 社団法人建築業協会

(1) 協会の概要

建築業に関する技術の進歩と経営の合理化を図るとともに、建築業の健全な発展を図り、もって社会

公共の福祉増進に寄与することを目的とした公益法人である。

(2) 建築業協会賞（BCS賞）の概要

選考の対象は、種類・規模にかかわらず国内において建築された建築物で供用開始後1ヵ年を経過したものであり、建築の事業企画、計画・設計、施工環境および建築物の運用・維持管理等に関する総合評価に基づいて行う。

3 四国における受賞作

3.1 学協会別受賞回数、作品数

現在までの総受賞回数は34回で、その内訳は、建築学会賞2回、建築学会作品選奨4回、田中賞8回、石川賞2回、建築業協会賞18回となっている。受賞回数の合計は34回であるが、受賞作品数は32作品である。これは、高知県立中芸高等学校が建築学会賞と建築学会作品選奨を1999年に受賞、内子町立大瀬中学校が建築業協会賞を1994年に、建築学会作品選奨を1995年に受賞しているためである。

表1：学協会別受賞回数

学会名	賞名称	受賞回数
社団法人日本建築学会	建築学会賞	2
	建築学会作品選奨	4
社団法人土木学会	田中賞作品部門	9
社団法人日本都市計画学会	石川賞計画部門	2
社団法人建築業協会	建築業協会賞	18
受賞回数合計		35

3.2 県別

県別に見ると、受賞回数が一番多い県は香川県の14回である。次いで愛媛県の10回、高知県6回、徳島県4回となっている。香川県が受賞した14回の中でも、建築業協会賞の受賞が10回と多くの割合を占めている。

表2：県別受賞回数

	社団法人日本建築学会		社団法人土木学会	社団法人日本都市計画学会	社団法人建築業協会	合計
	建築学会賞	建築学会作品選奨	田中賞作品部門	石川賞計画部門	建築業協会賞	
愛媛県	0	1	4	0	5	10
香川県	1	0	1	2	10	14
徳島県	0	0	2	0	2	4
高知県	1	3	1	0	1	6

3.3 用途別

用途別に見ると、文化厚生施設が最も多く15作品、次いで橋梁が8作品受賞している。文化厚生施設の中で約半数を占めるのが美術館・博物館である。

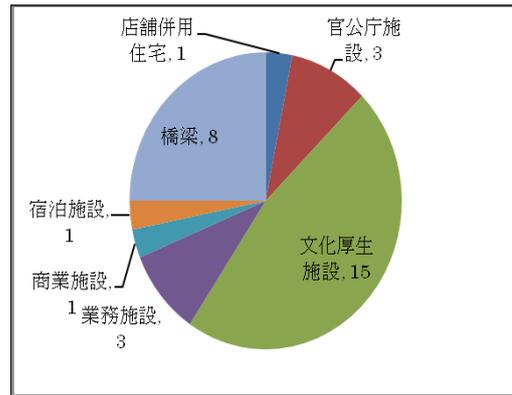


図1：建物利用分類別作品数

3.4 年代別

年代別に受賞回数を見ると、1960年代4回、1970年代7回、1980年代5回、1990年代13回、2000年代6回となっており、特に90年代に受賞回数が多いことが分かる。

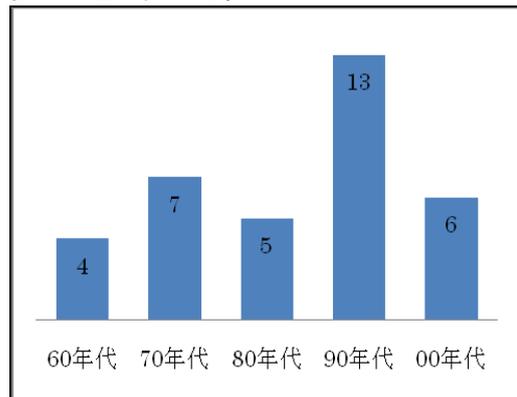


図2：年代別に見る受賞回数の推移

参考文献

- ・社団法人日本建築学会ホームページ
(<http://www.aij.or.jp/aijhome.j.htm>)
取得日 2010.10.13
- ・社団法人日本建築業協会ホームページ
(<http://www.bcs.or.jp/>) 取得日 2010.10.13
- ・社団法人土木学会ホームページ
(<http://www.jsce.or.jp/>) 取得日 2010.10.13
- ・社団法人都市計画学会ホームページ
(<http://www.soc.nii.ac.jp/cpij/index.html>)
取得日 2010.10.13
- ・建築作品データベース
(<http://db1.kitera.ne.jp/dnok/index.htm>)
取得日 2010.10.13
- ・Google マップ
(<http://www.google.co.jp/maps?ct=reset>)
取得日 2010.12.3